

「日本医師会 赤ひげ大賞」について

「日本医師会 赤ひげ大賞」は、公益社団法人日本医師会と産経新聞社が主催となり「地域の医療現場で長年にわたり、健康を中心に地域住民の生活を支えている医師にスポットを当てて顕彰すること」を目的として、平成24年に創設したものである。

【後援】厚生労働省、フジテレビジョン、BSフジ

【特別協賛】太陽生命保険株式会社

【対象者】

病を診るだけでなく、地域に根付き、その地域のかかりつけ医として、生命の誕生から看取りまで、さまざまな場面で住民の疾病予防や健康の保持増進に努めている医師。日本医師会の会員及び都道府県医師会の会員で現役の医師（ただし、現職の日医・都道府県医師会役員は除く）。

【推薦方法】

各都道府県医師会会長が推薦（原則1名以上2名以内）

選考委員

羽毛田信吾氏（昭和館館長、宮内庁参与）
向井 千秋氏（宇宙航空研究開発機構 技術参与、東京理科大学特任副学長）
檀 ふみ氏（女優）
ロバート キャンベル氏（国文学研究資料館長）
武田 俊彦氏（厚生労働省医政局長）
松本 肇氏（産経新聞社取締役）
河合 雅司氏（産経新聞社論説委員）

他日医役員

【表彰式・レセプション】

平成30年2月9日（金）帝国ホテル 東京

表彰式：午後5時～ 本館2階「孔雀の間 西」

レセプション：午後6時～ 本館2階「孔雀の間 南」

赤い夜賞

受賞者の紹介（順列は北から）

ふじ まき みき お
藤巻 幹夫医師 (90)新潟県医師会推薦
藤巻医院理事

診療地区は市内でも過疎高齢化が最も進む中山間地域の特別豪雪地帯である。昭和34年の勤務当初は、父が外来を、自らは往診を受け持ち、雪の中を7～8時間歩き往診したこともあった。新潟県中越地震の際は自院も被害を受ける中、被災者の診察に懸命に当たった他、40年以上にわたり予防接種医や学校医として、住民の健康管理にも努めている。

かわ い ふみ たけ
河井 文健医師 (77)静岡県医師会推薦
河井医院理事長・院長

地域唯一の救急告示診療所として、25年間昼夜を問わず救急医療に取り組む。交通外傷から内因性疾患など幅広く受け入れ、2次救急を担う病院ができた後も搬送までの時間を考慮し、初期対応に尽力。病院と連携して検査機器の共同利用や遠隔続影等にも対応するなど、住民からの信頼は厚い。

つかもと まこと
塚本 眞言医師 (67)岡山県医師会推薦
塚本内科医院理事長・院長

小規模多機能施設を医院に併設し、介護サービスを利用した住み慣れた地域での看取りに力を入れる他、住民主体の組織「円城安心ネット」を立ち上げ、健康や福祉、生活などに関する活動を地域ぐるみで展開。また、公共交通機関が乏しい地域のため、介護タクシー事業を展開し、病院や診療所への送迎等、地域の高齢者の生活支援も行っている。

まつばら けい いち
松原 奎一医師 (75)香川県医師会推薦
松原病院理事長

昭和43年より地域住民の健康保持増進に貢献。病気で来院する子どもの血液に異常値が多いことから、生活習慣病のハイリスク生徒への保健指導のため、校医をしている中学校の1年生への血液検査を自費で開始し、異常があれば保護者に助言して事後の経過を見守った。現在では、その成果が認められ、全県下で検査が実施されている。

みずかみ ただひろ
水上 忠弘医師 (73)佐賀県医師会推薦
水上医院理事長・院長

高齢化率が40%を超え、沿岸部や交通手段の乏しい山間地域で、34年間、かかりつけ医として24時間体制で診療や往診を行ってきた。デイサービスと小規模多機能施設を開設する他、リハビリ室を無料開放。有床診療所を維持していることは治療から看取りまでの住民の一生に関わることであり、安心につながっている。また、31年間校医も務めている。

選考委員特別賞

東日本大震災の復興は未だ道半ばである現状を忘れてはならないという
選考委員の強い思いから今回のみの特例として設置

かま だ まさと
鎌田 眞人医師 (59)宮城県医師会推薦
歌津八番クリニック
理事長・院長

地区で唯一の診療所として地域に貢献。東日本大震災では自院が全壊する中、昼夜を問わず避難所を往診して傷病者の救命と治療に当たり、被災翌日より中学校体育館で医療活動を開始し、4日後には急遽診療所を立ち上げた。自身が経験した災害医療、極限時における医療の提供を念頭に、新たな診療体制の確立に努めている。

さとう とおる
佐藤 徹医師 (59)宮城県医師会推薦
佐藤徹内科クリニック
理事長・院長

高齢化が顕著な南三陸町において、沿岸部・山間部にも訪問診療に出向き、学校医・産業医としても献身的に尽力。東日本大震災では自院は全壊し、直後は自身も避難所生活の傍ら町内の避難所を巡回し支援に当たった。半年ほど仙台市近郊で勤務医生活を送ったが、平成24年1月に再開業し、南三陸病院と連携の下、地域医療の再生に取り組む。

年齢は2017年11月末日現在